



立野ダム現地見学会の報告

現地見学会までの経過

「立野ダム現地見学会は、①村長のダム建設推進表明のあとに実施されるため、住民の疑問や意見を聞いて村の態度を決めるという内容とは違うこと。②国交省の立場からの説明会であり、ダム建設の必要性、安全性、環境保護などについての疑問や不安を系統的に説明・質問し、住民が多様な意見を聞いて検討・判断する場とはならないこと。」などの懸念があるため、1月19日と1月23日の二回にわたり、吉良村長へ要望を行いました。

<要望の中身は以下の通りです> 1月23日に吉良村長へ直接手渡しました。

国交省からの一方的な説明だけでなく、同様の時間を保障してダム建設の必要性・安全性、環境保護などについての疑問や不安を説明し、住民が多様な意見をもとに立野ダム建設問題を判断できる村主催の双方向性の住民説明会を複数回開催されるよう要望する。」

現地見学会(1月28日 午前)

100名以上の申し込みがあるも、雪の中75名の村民が参加しました。崩落斜面が雪で白く浮き上がり、ダムのすぐ上流の被害が大きかったことが目に留まりました。現地で国交省からパネルを使用して説明があり、その後、立野の国交省の事務所へバスで移動し、説明会がありました。村長のあいさつの後、国交省からパワーポイントを使用して説明がありました。村職員の司会者から、会場での発言が各自2分との説明があったため、会員から発言し松本代表からの説明を求め参加者からも認められたので、印刷資料を配布して約15分ほど説明を行いました。その後、手をあげての質問や発言が行われ、途中で国交省が説明する形で進行しました。会場は13名前後の発言がありました。立野地区の「地権者」という方からダムを推進する立場で2名発言。他は建設への不安や疑問、さらに建設費用への説明を求める発言でした。その内容項目を整理すると

- ① 熊本市内では河川改修が進み、整備計画の目標に達しているところがほとんどで、一部ぎりぎりのところも、航空写真を示して、河原の掘削で分量の水量を確保できるため、ダムは不要であること。河川改修が、安くて早くできることが説明されました。
- ② ダムは200 m³/秒の洪水調整能力しかない事。阿蘇市の遊水池が複数できるのが、その一つの小倉遊水池は88ha（東京ドーム18.7個分）もある。河川改修と遊水池でダムはいらないのではないかと。
- ③ 川辺川ダムでは当初予算350億円が中止までに3300億円に膨れ上がったこと。立野ダムも917億円の予算が数千億円に膨れ上がるのではないかととの質問と、現在いくらかかっているのかという質問に、58年当初予算425億円から917億円に引きあげられ、現在すでに600億円ほど使っていることが判明。（あと300億円でダムが出来上がるわけがありません！1/3は県民の税金です。）
- ④ ダムの5mしかない放流口が、多くの流木やその枝と大量の土砂で詰まるのではないかととの複数の住民からの質問があった。国交省はダムが詰まらないという根拠に流木の代わりに「割りばし」を使用しての実験結果を説明。しかし「流木は枝や根がついている」「今回の地震で崩落したような大量の木々や土砂の量は、実験で使用したような少ない量ではない」「流木と土砂や岩を交えた実験をしていない」「説明を聞くほどに不安になる」などの意見が出ました。
- ⑤ 詰まると、「別の穴から流す」との回答がありましたが、詰まった流木や土砂の撤去は容易ではなく、前回の熊本地震の後に大雨が続いたようなときには、撤去不能、ダムとしての調節能力が不可能となる不安が出されました。

- ⑥ ジオパークとしての立野の自然は、一度壊すと元に戻らない。自然と調和した方法をよく考えないといけない。ダムは阿蘇の大切な自然を破壊する。
- ⑦ ダムと比べて河川工事にどれだけの費用が必要かの質問へは、回答がありませんでした。
- ⑧ ダム建設現場の立野側の地下には、がれきの混じった大きな地盤があること（岩盤分類で最も弱くダム建設には不適とされているD級岩盤）を国交省の資料から引用して説明。しかも 500m上流に北向山断層が走っており、阿蘇大橋、黒川、長陽大橋が大きな被害を受けた場所であり、地盤の弱さと断層で、今後 50年 100年と不安な場所であること
- ⑨ 穴あきダムは、貯水しないダムであり、観光には役立たない。自然破壊でしかないこと。
- ⑩ 今回、このような村民が意見を交換する場が持てたことは、前進であると評価。今後とも是非、このような意見交換できる場を積み重ねて欲しいと村長への要望がだされました。

・河川改修と遊水地で十分安全に流せるのでダムは不要ではないかとの説明には、回答はありませんでした。ダム建設先にありきで、ダムの必要性を正当化するための説明が目立ちました。

・国交省からの一方的な説明会では、正しい情報は得られないことが、とてもよくわかりました。立野ダムは「必要だ」「安全だ」「観光に役立つ」という立場からの一方通行の説明しか聞けないような見学会や説明会は、判断を誤らせます。今回、両方の説明をして意見交換ができたことは、意義がありました。今後とも両方の立場からの意見が聞けるような説明会や意見交換会が重要です。

立野ダムを考える大津町民の会

同じ1月28日午後、大津町で「立野ダムを考える大津町民の集い」が開催されました。南阿蘇自然守り隊からも7名が参加し、交流しました。ダムのすぐ下流である、大津市ならではの悩みも聞くことができました。今後とも交流しながら運動を進めたいと思います。菊陽、熊本市内の渡鹿、北区、江南・江原・藤園の会などでも住民の会が出来てきており、2月24日10時30分から熊本市民会館で交流会を持つ準備が進んでいます。



南阿蘇自然守り隊新年学習会 是非、ご参加ください！

2月3日 土曜日 13時～15時

場所：白水庁舎二階大ホール

「荒瀬ダム撤去：よみがえる球磨川」

講師：つる詳子さん（自然観察指導員）